

ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇
 (XXI)

橋 本 侃

第三十番演目 「ユダの死」

(1)

カヤパ 使者よ、使者！

使者 ここにおります、カヤパ様、ここにおります！

カヤパ 使者よ、ピラトのところへ急いで行って、

言葉と行いにおいて、我らは意のままにふるまう、と伝え、

直ぐに裁判所へお出ましくださるよう願え。

急がなくてはならない重要な案件を抱えているのだ。

(2)

さあ、急いで行け、

構えてぐずぐずするな。

使者 カヤパ様、今日中にはすませましょう、

あつと思う間のことです。

〔ここで、場面はピラトが出場所の玉座に座っている場面が変わる。使者はひざまずいて言う。〕

写本百七十

(3)

ごきげんよろしう、ピラト様！ お見受けしたところ、ご壮健のご様子。

このユダヤの国の君主で、ユダヤの掟の守護者であらせられるピラト様！

我が主のカヤパ大祭司様はあなた様に敬意を表す、と申されておいでです。

明け方までには裁判所へお出ましくださるように願っておられます。

(4)

ピラト ゆけ、かわいい使者よ、わしも敬意を表する、と伝えてくれ。

急いでそこへ行こう——このように言ってくれてもいい、

日の出時までには皆のところへ行く、と。

ぐずつきもせず、遅れもしない。

〔ここで場面が変わって、使者はピラトの返事を携えて、言う。〕

(5)

使者 ごきげんよろしう、諸侯と、祭司の皆様、律法の権威者の方々、

ピラト様は皆様方に敬意を表す、と申され、こうお伝えするように命じられました、

「日の出の直ぐ後に、急いで裁判所へ赴く、

日の出までにはそこへ出向くであろう、それ以上遅れることなく」と。

カヤパ さあ、わしの良い近習よ、ゆつくりしてよいぞ。

使いに行った礼だ、この金を受けよ。

〔このユダヤ人たちのところへユダが来て、言う。〕

(6)

ユダ 俺ユダは罪を犯し、裏切りを働いた――

義の血を裏切ったのだ。

ここに貰った金が全部ある。

ああ、悲しみで、気が触れる！

(7)

アンナス 我らに向かって、今度は何を言いたいのか？

お前は我らと約束をし、

馬や牛のように、奴を我らに売り渡した。

自分のした事は自分で始末をつけなさい。

〔すると、ユダは金を投げ捨てるのと直ぐに、そこを飛び出し、首を吊る。〕 左百七十頁

(8)

カヤパ 皆の者、今や夜が過ぎ、朝が来た。

そのこの男イエスが裁きを受ける時が来た。

ピラトは一人で裁判所で待っている、

そいつを突き出すまで。

(9)

それゆえ、奴を引つ立て、急いでゆこう。

ユダヤ人一 そのようにとりはからいましょう、それも短時間のうちに。

ユダヤ人二 そうしよう。だが、奴をきっちり縛ってあるか良く確かめろ。

ユダヤ人三 これなら大丈夫だ。いい調子を取りながら歩いて行こう。

〔ここでイエスは舞台をぐるりと巡らされ、裁判所まで連れてゆかれる。〕

「ピラトの前での裁き」

(1)

カヤパ ピラト様、これなるものにご注目ください——

あのイエスを御前に引き連れしました。

我らの掟をぶち壊し、

我らに大いなる恥辱をもたらした奴です。

(2)

アンナス このエルサレムからガリラヤの地に至るまで、

奴のせいで我らの掟は危なく混乱をきたすところであった。

魔術によって引き起こす巧妙な業を使かい、

国民に不法な幻惑を見させたのだ。

(3)

律法学者一 そのとおりです、大祭司様。

しかし、その他にも、もつとも悪いことが――

あまりにも気高い我らがローマ皇帝陛下に逆らい、

自らをユダヤ人の王と称し、

そうすること、皇帝陛下の権力をなきものとしたのです。

(4)

律法学者二 ピラト様、イエスの罪科の半分も口にできません、

奴が我らの国で引き起こしたもののことです。

それゆえ、皇帝陛下の名によって、あなたに直訴します——
急いで死刑に処罰するように。

(5)

ピラト イエスよ、これらの陳述に対して言うことがあるか？
ここにいる人々はお前を激しく告発している、
お前が新しい掟の数々を持ち出したからだ、
我らの時代にはなかったのに。

(6)

イエス あの人たちの告発はわたしに関わりがありませんので、
あの人たちの魂を傷つけることは、もうありません。
探し求めているものを未だに見つけだせません——
父の御旨を推し進めなくてはならないのです。

(7)

ピラト イエスよ、今の答えで、お前が王であると信じることにした、
お前が神の御子でもあり、
地上の主であり、すべてのものの主であることを。
実際にそのとおりであるかどうか、わたしに教えてくれ。

(8)

イエス 父の御旨は天においては明かされている。

わたしがこの世で生まれたのは、

父がわたしを遣わされたからだ、

見捨てられた人々を探し出すために。

(9)

わたしの言うことを聞くすべての人と、わたしを信じる人と、

不動の信仰を持ちつづける人は、

たとえ死んでも、わたしが命をもたらしあげよう。

そして、終わりのない天上の喜びへ連れて行ってあげよう。

(10)

ピラト そうれ、皆の者、この男が言ったことを聞いただろう——なんと思う？

すべてを理屈で考えないことだ。

奴が言っているとおりであるかもしれないし、

その理由いかんによつては、そうあるべきかもしれない、と。

(11)

この男にはなんの問題点も見出せない——

過ちも、裏切りも、はたまた、どのような罪も！

よって、法的にはなんの判決も下せない。

罪状なしに死刑にすべきでない。

(12)

律法学者一　ピラト様、法はあなたの手にゆだねられており、

奴が大罪を犯したことを我らは充分に承知している。

この問題は皇帝のお耳に入れなくてはなりません、

イエスをあなたの元からこのままお放しになるのでしたら。

(13)

ピラト　そのように言うのなら、皆の者、一つだけ聞かせてくれ、

奴を告発する罪状はなんだ？

アンナス　閣下、我らは口をそろえて申しあげます、

奴が不法な仕業をしでかしたから、奴をここへ引き連れてきたのです。

奴が一つとして悪いことをしていないというのなら、

あなたの所へなど連れてくるわけがありません。

ピラト　そうであるのなら、口にしたとおりに奴を連れて行き、

お前たちの掟に従って裁いたらどうだ。

カヤバ 我らには法的に認められていないとおっしゃいますか？

どのように人を殺しても構わないでしょう！

あなたの所へ連れてきた理由は

奴を我らの王にすべきでないからです。

よくご存知のとおり、我らに王はいません——

皇帝陛下お一人だけです。

ピラト イエスよ、お前はユダヤ人の王か？

イエス あなたがそのように、わたしに向かって言っている。

ピラト ならば、聞かせろ、

お前の王国はどこにある？

イエス わたしの王国はこの世にはない。

あなたに一言だけ言っておく。

わたしの王国がこの世にあるのなら、

あなたのもとに連れてこられるはずはない。

ピラト 皆の者、あなたたちにも分かるように勧告しておこう——

この男になんの罪科も認められない。

(14)

アンナス 閣下、ここに大きな記録がありますので、ご注目ください。

そうすれが、この男に大きな罪があることが分かるでしょう。

しかも、一日や二日のことではなく、

奴が活動を始めてから、もう多くの年月が経っているのです。

それでもそれがいつ、どこでやった事なのか指摘できます。

何千という人々を回心させたのですよ、

この人民録のすべてが物語るように、

ここエルサレムからガリラヤの地に至る人々までを。

〔ここで、皆は「そのとおりだ」と連呼する。〕

(15)

ピラト 皆の者、それでは、一つのことを報告してくれ――

イエスがガリラヤの地に産まれたのかどうか。

なぜなら、我らには権限も裁判権も

その地方の人間には行使できないからだ。

それゆえ、事実をわしに言いなさい。

そうすれば、他の手だてが行使できるようにしよう――

イエスがその地方で産まれているのなら、
ヘロデによる裁判を甘んじて受けさせなくてはならない。

(16)

カヤパ 閣下、わたしはこの国の掟に誓って言うのだが、
事実を言うのに、なんのはばかりもない——
奴がガリラヤで産まれたことは知っている。
それがどこの場所であるかも指摘することができる。

このことに誰も反論できません。

なぜなら、ユダヤのベツレヘムで産まれたからです。

そして、すべてのことがはっきりしたからには、

ガリラヤの地に奴が産まれたことが立証されたのです。

(17)

ピラト では、皆の者、その立証をわしが承知したので、

この件に関する真実をぜひ見据えておかなくてはならない。

何をすべきか、今になって分かったぞ——

イエスを裁判にかけるのがわたしの権限ではなく、

ヘロデがその地域の王なので、

左百七十二

その国のことなら、どこの誰でも裁けるのだ。

イエスを裁く権利はヘロデが持たなくてはならない。

それゆえ、直ぐにイエスをヘロデの所へ連れて行け。

できるかぎり急ぎ、

イエスをヘロデの所へ連れて行き、面前に立たせ、

このように言え、「ピラトが命じた、すべからく言動において良かれと思い、

イエスをヘロデの所へ送る」と。

(18)

律法博士一 その使いを急いで出しましょう、

できるかぎり急いで。

どのような程度においても、遅くなることはありません、

ヘロデ王の面前に赴くまでは。

355

〔ここで、イエスを大至急にヘロデの所へ連れて行く。ヘロデは出場所ので王座にある。アンナスとカヤパの二人が立っている以外、すべてのユダヤ人は膝をついている。〕

(19)

律法学者一 ヘロデ王、万歳！ とても優れた王様！

御前に参上せよとの命を受けました。

350

ピラトに代わって、我らがあなたに敬意を表し、
従順にふるまうように命じられました。

百七十三 (360)

律法学者二 我らが懸命に務めるようにと命じられました、
あなたの元にナザレのイエスを連れてくることを。
加えて、我らが異議を申し立てないように、と命じられました。
奴はこの国で産まれたからです。

(20)

アンナス 奴が大きな過ちを犯したことは分かっています、
態度ではつきりと掟にそむきました。

365

それゆえ、ピラトは奴を王様のところへ送ってきたのです、
あなたが奴を裁くようにと。

ヘロデ王 では、慈しみ溢れる俺の神マホメットに掛けて言う、

ピラトにしては非常に親切なことをしてくれました。

370

あいつのこれまでの大きな無礼を許し、
終わりなく友達でいることにしよう。

(21)

俺の所に、あのイエスを送ってきたのだと！

奴をこの目で見たいと願っていた。

このことでピラトは大きな安らぎを見出すだろう。

さても、イエス、お前を喜び迎えよう！

(22)

ユダヤ人一 わたしを支配しておられる主よ、この一件こそがくだんの訴訟です、

イエスが犯した大きな過ちは公然と知られております。

これほど大きな罪を犯した者はいままでにいません。

奴は我らの掟をほとんど台無しにしたのですから。

(23)

ユダヤ人二 そのとおりです、魔術の不法な技を使って、

人民すべての目の前で公然とおこなったのです。

魔法の不思議な勘所を押さえると、

何千という者たちが我らの掟から脱落して行きました。

(24)

カヤパ とてもりっぱな王よ、ぜひとも気をつけられますように。

奴はこの国の老いも若きも、一人残らず滅ぼすつもりでいます。

このまま十ヶ月も事を進めたら、

奴の奇跡と不法の説教によつて、

人々を大きな狂気に落し入れ、

日々、すべての人々に触れ回るのです——

自分が主であり、ユダヤ人の王である、と。

それに、神の御子を自称しています。

(25)

へロデ王 皆の者、俺もそのように話されるのをいままでに聞いている。

それに、お前たちが告げた以上のことも。

すべてをあらいだらいざらい明らかにさせるのだ。

そうしてくれたら、その件に関しての皆の助言を得たい。

(26)

イエスよ、俺の所に良く来てくれた！

お前を送ってくれたことをピラトには大いに感謝している。

お前を見たいと願ひ、

お前の起こす奇跡について、もっともっと知りたいと思っていた。

(27)

お前がたくさんの不思議なことを起こすと聞かされている。

脚萎えが歩き、目暗が見えるようになり、
死んでいた者が命を与えられ、
癩病患者が治ってきれいになってしまおう！

(28)

これらがお前が引き起こした不思議な業だ。
どんな方法を使っても、真相を知りたいものだ！
さあ、イエスよ、お願いだ、見せてくれ、
俺の目の前で奇跡を一つ起こしてくれ。

(29)

さあ、急いで、励んでやってみてくれ。
そうすれば、お前に目を掛けてやってもいい。
俺様の目の前にいるということは、

お前の生き死には、この胸いかんによるのだぞ。

〔イエスはヘロデに向かって一言も口を利かない。〕

(30)

イエスよ、お前の王である俺に向かつてなぜしゃべらないのだ？
そのようにじっと立ったきりである理由はなんだ？

俺がすべてを裁けることを知ってるだろう？

お前の生死は俺の思いどおりにできる！

(31)

イエスよ、なにか言え、言つて、なぜかを答えろ！

ここにいる者たちがお前を告発するのを聞いただろうが――

物惜しみせずに、さあ、話せ、急いでだ、

自分をどう弁解できるというのだ？

(32)

カヤパ 御覧なさい、みなさん、これが奴のずる賢いところですよ。

好きな時にしか、しゃべるつもりはないのです。

こうして、どの階級の人々もだまからかすのです。

奴はまったく不正極まりない、と言うわたしを信じてください。

(33)

ヘロデ王 この首吊り寸前のごろつきめ、なぜ口を利こうとしないのだ？

お前の王に口を利くのを軽蔑しているのか？

われらの掟を破ることになるから、

我らと話をするのを恐れているのに違いない。

(34)

アンナス とんでもありません、恐れてなどいません——それが不法なやり口なのです。
 奴を告発すべきではありません、

奴があなたに向かって答えを出したら、

自分で自分が許せないことを知っているのです。

(35)

ヘロデ王 しゃべれ、と言っているんだ！ このごろつきめ、悪さをたくらんでるな！

顔を上げろ、悪魔がお前をイエス同様に「王詰み！」にするかもしれないぞ。

皆の者、剥き身の鞭で奴を打ち据え、

無理にでもしゃべらせろ！

(36)

ユダヤ人— 直ぐにそのようにしましょう。

こっちへ来い、国賊め、自分に向つても悪さをしているのが分からんか！

我らの王にしゃべる気がない、だと！

新しい教訓を教えてやろう。

〔ここで、イエスの衣服を脱がせて、鞭打つ。〕

(37)

ユダヤ人二 イエスよ、我らはお前の骨を砕くつもりはないが、
左百七十四

びよんぴよん跳ね回りをやらせてやろう。

舌をなくして、しゃべれないんだ。

今度はこの鞭の痛さを味わいさせてやろう！

(38)

ユダヤ人三 皆さん、ここにある鞭を皆さんの手にそれぞれ持って、

鞭が長持ちしている間は惜しまずにぶっ叩きましょう、

ここに突っ立つ国賊を！

急いで口を利く気になるはずだ。

〔ここうして皆でイエスが血だらけになるまで叩く。〕

(39)

ヘロデ王 皆の者、そこで止めよ、地獄の悪魔の名にかけてお前たちに命じる！

イエスは遊びでもしているつもりになっているな？

お前は強いから、恥ずかしい思いはしていないと見える。

ならば、ぶち叩かれて片輪になったほうがいいな、

罪の数々を口にするよりは。

(40)

だがな、お前の体ぜんぶをだめにするつもりはないし、この場で更に苦痛を与えるつもりもない。

皆の者、お前たちの意のままに、イエスを連れて行け、奴をピラトの屋敷にもう一度連れて行くのだ。

ちゃんと挨拶をし、はっきり告げるのだぞ――

「わしの友情のすべてを込め、

イエスを自由に扱う権限を与える」と伝えるのだ、

「奴を地獄へ落とそうが、命を救おうが勝手にせよ」とな。

(41)

律法博士一 陛下、ご要望に従って、事を運びましょう。

ご要請に従って、イエスを引きたてて行き、

ピラトへ奴を引き渡し、

ご命令を逐一伝えましょう。

〔ここで、サタンがひどく恐ろしい格好で登場する。〕

〔サタンの台詞の最中に、イエスは衣服を着せられ、白布をかぶせられ、舞台を巡らされ、ピラトの妻の台詞が終わるまでピラトの出場所に留まる。〕

百七十五

465

460

455

第三十一番演目「ピラトの妻の夢」

(1)

サタン 俺は、ぎゃあぎゃああと叫び声を挙げる連中と一緒に王として君臨している。とても高貴な悪魔として、俺の一撃は恐れられている。

何千という悪魔どもが俺様に付き従う、

火打石から発せられた焰のように火炎の中で燃えながら。

俺様サタンに仕える者は誰でも、悲しみへと追いやられ、

土牢に大蛇と真つ黒な悪魔たちと一緒に、

卑賤な奴らは粗銅と硫黄のうちに焼かれている。

奴らは俺の御旨を行うためにこの世に住む。

(2)

この世で犯した悪さに応じて、奴らの手足を打ちのめす、

ユダが売り渡したイエスを馬鹿にした奴らめ。

奴ほど巧妙でずる賢い奴はいなかった。

大胆不敵な国賊として奴らをこの地獄へ追い落としてやる。

(3)

だが、俺をひどく苦しめていることが一つだけある、人々がイエスと呼ぶ預言者のことだ。

奴は俺を毎日毎日、ますますひどく、苦しめる、

奴の聖なる奇跡を含むすべての業でもって。

(4)

奴を一度、誘惑したことがある、

食欲と、物欲と、虚栄で。

あらゆる方法をできるかぎり使って奴を試したが、

奴は完璧にそれらの欲を拒絶して、俺を侮辱した。

(5)

俺にくれた侮辱に対して絶対にお返しをしてやる！

そのいくつかはもうすでに始めたが、もっとしかけなくてはならん。

奴が裸足で逃げ出そうとしても、俺から逃げ出させはしない。

俺様の暗黒の土牢へと連れて行ってやる！

(6)

奴がその上で死ぬことになっている十字架を用意し終わった。

左百七十五

それに加え、奴がびくとも動かないように打ち留めて置く三本の釘もだ。
どんな聖なる人でも俺から逃げ出させず、
鋭い槍の切っ先で、心臓まで刺し抜いてやる。

(7)

その後で、いくら頑丈にできていても、地獄へ来させてやる！
それでもまだ奴が来るかどうか心配だし、何か悪さをしでかすつもりか？
それなら、地獄へ行つて、悪魔たちに回りを良く警告させよう。
そうすれば、地獄の穴に奴を縛っておく鎖の用意ができる。

(8)

地獄よ、地獄、用意を整えよ——ここへお客がやって来るぞ！
神の御子と呼ばれるイエスがここへやって来て、
昼時までにはここにいますはずだ。

お前とここに一緒に留まって、
悪の休息を充分に取るのだ。(「ここで、地獄の悪魔の一人が呼ばれる。」)

(9)

悪魔 この野郎め、お前に呪文を掛けてやめさせてやる——
キリストの姿など地獄で絶対に見られないように。

もしも地獄へ一度でも入ってきたら、
我らの力など破壊されてしまうにちがいない。

(10)

サタン ああ、ああ、そうなら俺はやり過ぎたわけか？

誰も助けてくれないなら、俺に巧妙な手がある。

俺の勝負はこの地獄で考えるより形勢が悪い。

俺の勝負は負けたと言える。

(11)

見ろ！ それでも俺は一つの罠を投げたおいた、

イエスの命を救うことができるかどうかだ。

地獄門にはしっかりと錠を下ろし、

今俺が幽閉している奴らを全部閉じ込めたままにしておく。

(12)

今からピラトの細君の所へ行こう。

ベッドでぐっすり眠っていたら、

余計な言葉は口にしないで命令しよう、

ピラトの所に人を遣いに出し、急いで呼ぶように、と。

(13)

この劇をご覧の皆様、これがうまく行くか試してみますよ、

ピラトを急いで連れて来るように。

寸時のうちに、ご覧になりますよ、

俺様の巧みな業がうまくいったかどうかを。

〔ここで、サタンはピラトの妻のところへ行く。ベッドにはカーテンが引き回されてい
て、音を立てないようにするが、妻はサタンが部屋に入ると直ぐに、憐れな声を上げ、
舞台の出番所から走り出る。手に上着と下着を持ち、ピラトの前に出て、気違いのよう
にしゃべる。〕

(14)

ピラトの妻　ピラト様、充分に注意をなさいますように！

イエスを裁かずに友となってください。

イエスに死刑の判決を下したら、

あなたは終わりのない地獄落ちですよ！

(15)

一匹の悪鬼がわたしの前に姿を現したのです、
ベッドでぐっすり眠っている時に。

こんなことは生まれて以来、初めてのこと、
とてもおびえました。

(16)

猛り狂う焰と、雷が鳴り響き、
悪鬼はわたしに向かって大声で叫びながらやって来て、
言いました、「イエスを叩いた者、あるいは、しっかり縛った者は
永遠に、地獄に落とされる」と。

(17)

それゆえ、そこに一つの抜け道を見出して、
イエスをあなたから、きれいさっぱり過ぎ越しさせなさい。
ユダヤ人たちはあなたをだまし、
すべての罪をあなたに覆いかぶせるつもりよ。

(18)

ピラト 妻よ、ありがたいことを！ いつまでも誠実であってくれ！
お前の助言はいい——いつもそうであった。
さあ、お前を部屋まで送って行こう。
今に分かるが、すべてのことはうまく行かせるからな。

左百七十六

〔ここで、ユダヤ人たちはイエスを再びピラトの所へ連れて来る。〕

(19)

律法博士一 ピラト様、良い報せをわたしの口からお聞きください。

閣下はヘロデ王にたいして友好的な姿勢をお取りだ。

そして、あなたのもとにイエスを再び寄越すことで、

奴を殺すか救うかのどちらかを選ばれるように、と王様は命じられた。

(20)

律法博士二 そのとおりです、閣下、すべての権力は今やあなたの手の中にあります。

奴が危なく駄目にするところだった我らの信仰をあなたはご存知だ。

それに対して、どのような不法を奴が犯したのかご存知だ。

我らはあなたに命じる、奴を裁きなさい。

(21)

ピラト 皆の者、実際、あなたたちは非難されてしかるべきだ！

このようにイエスを鞭打ち、身包み脱がせ、手足を縛り、

こんなにひどい恥さらしをさせるとは！

それと言うのも、その者になんの過失も見出せないからだ。

(22)

わしがお前を送った相手はヘロデを置いて他にない。
 わしには過失を一つも見つけられなかった。
 ところが、あなた方を通じて、再びわたしの所へ送られてきた、
 あなたたちの誰もが承知のように。

(23)

それゆえ、これから言うことを分かってほしい——
 知つてのとおり、この国にはしきたりがある。

まもなくやって来る過ぎ越しの祭の慣例で、
 縛られている者が泥棒であれ、国賊であれ、
 なんの褒賞もなく、

この祭の日を神聖なものとして敬うために、

解き放して自由にさせることになっている。

それなら、イエスを生きたまま放すことが正しいことだと、
 今が今、わしには思えるのだ。

そして、イエスにはこれ以上の残酷な仕打ちはしないことだ。
 皆の者、これがわしの忠告だが、

これに対してお前たちがどう言うのか知りたいものだ。

百七十七 (565)

〔ここで、皆は「言うことは何もない!」と連呼する。〕

(24)

律法博士一 我らのために、泥棒のバラバスを自由にせよ、

殺人罪で牢に入れられていた者だ。

ピラト では、イエスについては、わしは何をしたらいいか?

牢に置いておくか、放そうか?

律法博士二 イエスを十字架に張り付けにしろ、

我らの誰もが「十字架に掛ける!」と叫ぶ!

ピラト 皆の者、イエスがどんな間違いを犯したと言うのだ?

群集 俺たちは言っている、直ぐに十字架に掛ける、と!

(25)

ピラト 皆がどうしてもそうすると望んでいるのだから、

イエスを苦しく痛い目にあわせろ!

だが、その前に、わしとイエスをしばらく一緒にさせてくれ。

二人きりでわしの調べを試みたい。

〔ここで、ピラトはイエスを会議所へ連れて行く。〕

(26)

イエスよ、さあ、言ってみろ――

この件については分かっておろうが、

わしに向かつては黙っていてもいいが、

お前の国の人たちに向かつては、そういかんぞ。

(27)

ユダヤの掟を守る祭司と僧侶たちは、

分かっただろうが、お前が好きではなく、

平民たちをお前に背かせるように計っている。

わしには口を利かなくてもいいが、

このことだけははっきりとっておく。

(28)

さあ、なんと言うか、イエスよ、なぜわしに物を言わんのだ？

左百七十七

わしがお前を十字架に磔にする権限を持っていることを知らぬわけではあるまい。

しかも、お前を自由にする権限も持っているのだ。

さあ、そうであるのなら、この際、何を言ったらいいのか？

(29)

イエス わたしにはなんの力も振るえない。

わたしの父が以前に認めてくれたことだが、

この世に来たのは人間が滅びないようにするとう

父の御旨を実現させるためだ。

わたしを裏切って、あなたにわたしの身を引き渡した者は、

あなたのよりずうっと罪が深い。

(30)

律法博士一 諸侯に先生方、ご注目ください、

この件に関してピラトは好意を示されているのです、

このように我らが掟を台無しにして、

もしすべてを元にもどせないのなら、と。

〔ここで、ピラトはイエスを置去りにし、ユダヤ人たちに加わる。〕

(31)

ピラト 皆の者、イエスについて、今が今、何をしてもらいたいのか？

あの男には善しか見つからぬ。

わしの提言は奴を放してやることだ。

奴の血を流すのは痛ましいことだ。

(32)

カヤパ ピラト様、あなたは不当な行為をなさっておいでのように思われますぞ、

このように我らの掟に敵対するとは。

それに、ここに集まっている人たちには権限があるから、

法的な証言をあなたに求めるはずです。

(33)

アンナス そのとおりです。もし我らからイエスを手放されると、

このことを我らは皆、断言しますが、

あなたは奴の罪に責任を取らなくてはなりません。

さもないと、あなたを皇帝陛下にとっての裏切り者と呼びましょう。

(34)

ピラト さて、それなら、あなたたちはそれより他の道を取らず、

どうしてもイエスが死ななくてはならないと望むのだから――

アルテイス、お願いだ、わしに水を持ってきてくれ。

そうしてくれたら、わしがすることをを見せてやろう。(「ココデ、一人ガ水ヲ渡ス。」)

わしの手を水できれいに洗うと同じに、

あの者の死に対するわしの罪もきれいになれ!

律法学者一 奴の血は我らの上にあれ!

そして、我らの後には、我らの子供たちの上に！

〔ココデ皆ハ、「ソノトオリニ！」ト連呼スル。すると、ピラトはイエスの所へ戻ると、イエスを連れてくる。〕

ピラト よく見ろ、皆の者、奴をここへ連れてきて、皆の前に立たせたぞ。

これで奴に罪がないとわたしが判断したことが明らかに分かっただろう！

法律博士二 奴を解き放してください——そうすれば、代わってやらせてください、奴の命を終わりにするために、十字架につけましょう。

ピラト 皆の者、お前たちの王をわしが十字架に掛けていいのか？

法律博士三 閣下、我らには王はいません、ローマ皇帝陛下だけです、

と我らは言います。

ピラト 皆の者、とにもかくにも事をそのようにしなければならぬのだから、我らは威儀を正して、役目を果たさなくてはならない。

裁かれる者たちを法廷に引き出すように。

そうすれば、その者たちを裁こう。

〔ここで、下着姿で裸足のバラバスとイエスと二人のユダヤ人が法廷に引き出される。〕

イエスは間に立つ。ピラトが座を占めると、アンナスとカヤパが会議所へ入る。〕

バラバス、どれがお前か、手を上げて報せよ。〔バラバスは手を挙げる。〕

このように立たせて、そう言うのは、ここでお前を解放するためだ。皆の者、泥棒で大胆な国賊であるバラバスについてなんと言うか？

奴を自由にするか、牢にぶち込んでおくか、どっちにするか？

律法博士一 我らの過ぎ越しの祭りの日の厳肅さのためには、

我らの掟に従って、奴を解き放しましょう。

ピラト それでは、バラバス、わしはお前を解放する、

自由に歩ける認可証を授けよう。〔ばらばすハ走り去ル。〕

そこに立つデイスマスにジェスマス、

法によって命じる、手を挙げる！

この二人の泥棒についてはなんと言うのか？

律法博士二 二人とも有罪であると我らは見ます。

ピラト それから、ナザレのイエスについてはなんと言うか？

律法博士一 奴は死刑に処すべきだと言います。

ピラト しかし、あの者には不利になる罪状を付けられないだろうか？

律法博士二 閣下、我らは皆、奴が十字架に懸るのを望んでいます。

〔ココデ、皆ハ大キナ声デ繰リ返シ言ウ、「ソノトオリダ」ト。〕

ピラト イエスよ、お前の民は認めていないぞ、

お前のためを思つてわしが言つたり、わしが助言したりしたことを。

(35)

先ず最初に、皆に命令しておく、

後で、わしに答えてくれるように。

なんびとたりともお前たちの王に触らせない、

騎士か紳士に生まれた者でなければ。

(36)

先ず、奴から衣服を剥ぎ取つて

裸にしたら、

張り付け柱に、できるかぎりしっかりと縛り付け、

すべての人に見えるように鞭で叩け！

叩き終えたら、お前たちの王として冠をかぶらせよ！

それから、奴を十字架の所まで連れて行き、

しっかりと十字架に縛り付けよ。

そうされたら、お前は三本の釘で体を支えるのだ。

そのうちの一つはお前の右の手に刺し通し、

もう一つを同じ様に左の手に刺し通し、

三本目はお前の両足を刺し通される。

それに使う釘はぴったりした業物を使え。

しかも、たった一人で吊るされるのではないぞ。

お前の両側には一人ずつ吊るされることになる。

デスマスよ、今が今、お前に判決を言い渡す――

お前はイエスの右側に、

そして、お前ジェスマスよ、左側に吊るされよ、

人に見えるように、「されこうべ」の丘の上に。

675

〔ここで、ピラトは立ち上がり、自分の出番所へ行く。大祭司とピラトとユダヤ人たちは

大きな喜び声を上げる。イエスに出立する用意をさせ、衣服を脱がせ、張り付け柱に縛

り付け、何回も鞭打つ。〕

ユダヤ人― 我らの王を喜んで演じるのだ！

なぜなら、今からお前の役が始まるからだ。

〔鞭打ちが終わると、絹布を着せ、足置き台に座らせ、何本かの干草鋤と一緒に茨の冠を

頭にかぶせる。ユダヤ人たちはキリストに向かって膝をつき、王錫を持たせ、口々にあ

ざけりの声を上げる。紫の衣を脱がせ、再び元の衣服を着せ、自分で運ばせるために十

字架を首の上に載せ、荒縄で引っ張る。〕

670

「ここに、第三十一番演目「ピラトの妻の夢」を終わり、第三十二番演目「されこうべの丘への道行き」へ続く。」